

『陸海軍喇叭譜』（1885）制定以前の陸軍フランス式ラッパ譜について

Influence of the French Bugle Call on the Imperial Army of Japan in the Early Meiji Period.

奥中 康人

文化政策学部 芸術文化学科

Yasuto OKUNAKA

Department of Art Management, Faculty of Cultural Policy and Management

『陸海軍喇叭譜』が制定される1885年12月以前には、陸軍はフランスのラッパ譜を、海軍はイギリスのラッパ譜を用いたことが知られているが、それ以上の詳細は判っていなかった。しかし、近年発見された3点の手書きの陸軍ラッパ譜（靖国偕行文庫所蔵のタイトルの無い2点と、名古屋鎮台のラッパ手が記した『喇叭記帳』）によって、その実態を解明できることになった。調査の結果、日課号音、招呼、敬礼、教練のためのラッパ信号（約70曲）については、ほぼフランスのラッパ譜に由来を確認することができる（例えば、「起床」*« Le Réveil »* や、「礼式」*« Aux champs »* など）。しかし、軍隊内の組織に対して付与された約30曲の隊号（例えば、「鎮台一聯隊」など）、敬礼のための「靖国神社参拜式」については、日本で創作された可能性が高い。また、2000小節を超える長大な行進曲も日本でアレンジされていたと考えられる。3冊の楽譜資料は、明治前期におけるフランス音楽受容の広がりをよく示している。

The purpose of this paper is to show an influence of French bugle call on the Imperial Army of Japan. Although it's a well-known fact that the Army used a French bugle calls before December 1885, little is known about further details. But it become clear that what kind of calls existed at those days, because three handwritten notes for bugle call, two notes with no title from *Yasukuni Kaikou Bunko* collection, and *Rappa Kicho* (Bugle note) written by a bugler at Nagoya, were found within recent years.

We can confirm that the about 70 bugle calls for daily routine, salute or drill were derived from the French bugle calls; '*Kisyo*': *« Le Réveil »*, '*Reishiki*': *« Aux champs »* etc. On the other hand, about 30 calls (refrain) given for each organization inside the Army, and '*Yasukuni Jinja Sanpaisiki*' for ceremony were presumably composed in Japan. A long bugle march was also arranged in Japan. Research revealed that French military music was widely accepted in the early Meiji period.

1. はじめに

軍隊の信号ラッパ（仏：clairon、英：bugle）は、幕末維新时期から日本に存在するヨーロッパの金管楽器で、おそらく、ある時期まではピアノやヴァイオリン以上に普及していたはずである。ラッパの楽譜についても、はやくから『英国歩兵練法』（1865）や、『喇叭符号』（1867）などが刊行され¹、戊辰戦争の頃には、そうした楽譜に基づいたラッパ信号が鳴り響いたと考えられている。

1871年に創設された陸海軍においても、フランスの軍隊をモデルにした陸軍がフランスのラッパ譜を、イギリスの軍隊をモデルとした海軍はイギリスのラッパ譜を用いたといわれているが²、1885年12月に、最初の日本オリジナルのラッパ譜『陸海軍喇叭譜』（221曲）が制定されたことによって、それまでのフランスやイギリスのラッパ譜は用いられなくなった。陸軍に関して言うと、1902年に（『陸海軍喇叭譜』を継承した）『陸軍喇叭譜』が制定されたことによって海軍と分離。この『陸軍喇叭譜』も、何度か改正を繰り返して、最終的には77曲の『陸軍喇叭譜』で1945年8月を迎える。

したがって、幕末維新时期から1945年まで日本のラッパ譜の歴史は、次のような4つの時期に区分することができる。

1865～70頃	幕末維新时期の仏・英のラッパ譜
1871頃～85	陸・海軍の仏・英ラッパ譜
1885～1902	『陸海軍喇叭譜』
1902～45	陸・海のラッパ譜が分離

このなかで、1871頃～85年を除く3つの時期についてはラッパ譜がある程度は残っている。しかし、1871頃～85年については極端に資料が少ないため、「仏・英のラッパ譜をもちいた」以外の情報はほとんど存在しなかった³。また、幕末維新时期と同じように「仏・英のラッパ譜」を用いたのなら、わざわざ調査をする必要はないと思われたのか、この時期の研究も少ない。ところが、近年のインターネット上のデータベース、デジタル・アーカイブの整備、および新たな楽譜資料の確認によって、その実態を垣間みることが可能となった。

本稿は、明治前期——『陸海軍喇叭譜』（1885年12月）以前——の陸軍ラッパ譜について、残されている文献や楽譜を紹介し、その実態をどこまで明らかにできるのかを示したい。主な資料として、明治十年代後半の3点の手書きのラッパ譜（おそらくこれまで紹介されたことのない靖国偕行文庫の2点、および名古屋鎮台の『喇叭記帳』）を用いて、同時代のフランスのラッパ譜や、陸軍の文書に残された記述を参照し、当時の陸軍におけるラッパによる敬礼

¹ 他にも『英式喇叭譜』（1869）や、『英国尾栓銃練兵新式』（1869）、『英国銃隊練法』（1871）、『法国歩兵演範 散兵教法』（1869）に収録されたラッパ譜がある。

² 「此以前〔1885年の『陸海軍喇叭譜』以前〕の海軍は英国、陸軍は仏国を用ゐたり」小山作之助『国歌君が代の由来』（1941）106頁。

³ ただし、近年になって塚原康子は、明治14年に海軍の（少なくとも）敬礼のラッパ譜が独自のものに「改正」されていたという事実を明らかにしている（『明治国家と雅楽—伝統の近代化 / 国楽の創成』（有志舎 2009））。

や日課号音、行進曲等の収録曲を分析する。それにより、フランスのラッパ譜だけが用いられていた訳ではなく、遅くとも明治十年代には日本で作曲されたラッパ譜が存在し、吹奏されていた可能性があることを明らかにする。ともすると単純な「信号音」と思われがちな軍隊ラッパだが、長大なラッパの行進曲など、意外に豊かな西洋音楽文化が存在したことも臆気ながら浮かびあがってくる。

2. 『偕行ラッパ譜A』

靖国神社の靖国偕行文庫には、「明治二十年前後の陸海軍ラッパ譜」というタイトルで3冊のラッパ譜が1セットになって所蔵されている。この3冊には、いずれもタイトルが記されていないので、本稿では仮に『偕行ラッパ譜A』『偕行ラッパ譜B』『偕行ラッパ譜C』として、それぞれの楽譜の内容を検討しようと思うが、『偕行ラッパ譜C』は1886（明治19）年頃に刊行された『陸海軍喇叭譜』であるため除外し⁴、残りの『偕行ラッパ譜A』と『偕行ラッパ譜B』を対象とする。この2冊は、以下に説明するように、『陸海軍喇叭譜』が刊行された1885年12月よりも前に作成された可能性が高い。

『偕行ラッパ譜A』は、縦7cm×横12cm、黒表紙をもつ150頁の小さな手帳で、手書きのラッパ譜である。五線も手書きで1頁に4段。ただし、音符が記されているページ、空五線のページ、白紙のままのページが混在していて、筆記作業はあまり計画的ではなかったように見える（〔表1〕参照）。ただし、音符自体は極めて丁寧に読みやすい（曲のタイトルは日本語で記されているので、筆記者は日本人と思われる）⁵。

3～6頁には、軍事用語の「和語仏語」の対応表が記されている。たとえば「起床」は「ルレウエー」、「点呼」は「ラペール」というように、55の日本語の軍事用語と、それに対応するフランス語（カタカナ）が記されていて、陸軍のお雇い外国人がフランス語を用いた様子うかがえる。

ラッパ譜は5箇所に掲載されており、ラッパ信号が1箇所（44～70頁、）に、行進曲が残りの4箇所（34頁、36～41頁、84頁、88～148頁）に掲載されている。

2-1. ラッパ信号【日課号音】【招呼】【敬礼】【教練】

44～70頁には、116曲のラッパ信号が掲載されている。特に分類の明示はないものの、各曲のタイトルから判断して便宜的に分類すると⁶、【日課号音】（7曲）、【招呼】（12曲）、【敬礼】（15曲）、【教練】（38曲）、【軍隊・学校】（32曲）におおよそ分類できる。リズムや音価が微妙に異なる別バージョンの〔異稿〕（12曲）も添えられている。

116曲から重複する異稿12曲を除くと、実質的には104曲が収録されていることになる（全曲については、本論文63～64頁の〔表3〕参照）。

まず【日課号音】【招呼】【敬礼】【教練】（44～64頁、72曲）について、そのタイトルやメロディを、フランスのラッパ譜——フランス陸軍省が1875年に制定した歩兵教練書（以下、『仏ラッパ譜（1875）』と略記）⁷に収録されているラッパ譜——と対照させて調べてみると、多くの曲について同じ曲を簡単に見出すことができる。したがって、陸軍はフランスのラッパ譜を使っていた、という、これまでの通説を、とりあえずは確認することができる。

起床	Le Réveil
点呼	L'Appel
喫食	La Soupe
学科	L'Ecole du premier degré
分レ	La Berloque
曹長呼	Aux sergents-majors
周番軍曹呼	Aux sergents
給養軍曹呼	Aux fourriers
週番伍長呼	Aux caporaux
喇叭手呼	Le Rappel
控兵呼	Au Piquet
集合	Le Rappel
呼集	L'Assemblée
一般命令	A l'Ordre
軍旗集合	Au Drapeau
拝命布達	Le Ban
非常	La Générale
〔タイトルなし〕	La Retraite
気ヲ付ケ	Le Garde-à-vous
消燈	Extinction des feux

〔表1〕『偕行ラッパ譜A』

頁	1 ~2	3 ~6	7 ~33	34	35	36~41	42	43	44~70	71 ~82	83	84	85 ~87	88~148	149 ~150
内容	白紙	和語 仏語	白紙	楽譜 行進曲 2曲	白紙	楽譜 行進曲 (12番)	空五 線	白紙	楽譜 ラッパ信号 116曲	空五 線	白紙	楽譜 行進曲 2曲	白紙	楽譜 行進曲 (97番+12番+8番) (*右綴じ)	白紙

⁴ 印刷譜の『偕行ラッパ譜C』は、『陸海軍喇叭譜』（1885）に制定された221曲と、1886年10月に追加された号外の「足曳き」「陸軍砲兵射的学校」の2曲を含んでいるので、1886年10月以降に刊行されたことになる。他に、手書きで「第七中隊」～「第十二中隊」（1887年9月24日に追加制定）、「みづくかばね」（1893年8月1日に追加制定）、「後備歩兵第八聯隊」等（1894年8月1日に追加制定）が書き加えられている。

⁵ 「明治二十年前後の陸海軍ラッパ譜」を寄贈した政府三徳の父、政府金助による写本である可能性が高い。政府金助（1867年生まれ）は、1884年6月に陸軍教導団の歩兵科喇叭生徒となり（1885年9月卒業）、1885年9月に名古屋鎮台歩兵第十八聯隊第三大隊喇叭長になっている。

⁶ 【日課号音】【招呼】【敬礼】【教練】【軍隊・学校】【行進曲】は、後年の『陸海軍喇叭譜』のカテゴリを参考にした（あくまでも便宜的なもので、中にはそのカテゴリに相応しくないものも含まれているが、譜面に記されている曲順を優先）。

⁷ *Règlement du 12 juin 1875 sur les manœuvres de l'infanterie.* / Ministère de la guerre, 1877. (フランス国立図書館 Bibliothèque nationale de France の電子図書館ガリカ Gallica によって閲覧)

礼式	Aux champs	〔タイトルなし〕	Les refrains des compagnies(1)
軍隊二應スル礼式	Aux champs en marchant	〔タイトルなし〕	Les refrains des compagnies(2)
早足	Le pas accéléré	〔タイトルなし〕	Les refrains des compagnies(3)
坂（マルス）	Le pas de charge		
かけ足	Le pas gymnastique		
附ケ剣	Baïonnette au canon		
取レ剣	Remettre la baïonnette		
止レ	Halte		
散兵前へ	En avant		
散解	En tirailleurs		
右向ケ	Par le flanc droit		
左向ケ	Par le flanc gauche		
退却	En retraite		
伏臥	Couchez-vous		
起立	Levez-vous		
打方	Commencez le feu		
全止	Cessez le feu		
早馳	Le pas de course		
大隊集合	L'Assemblée		
騎兵右方ヨリ襲来	Cavalerie venant à droite		
騎兵左方ヨリ全	Cavalerie venant à gauche		
全前方ヨリ全	Cavalerie venant sur le front		
	〔タイトルなし〕		
	〔タイトルなし〕		
	〔タイトルなし〕		

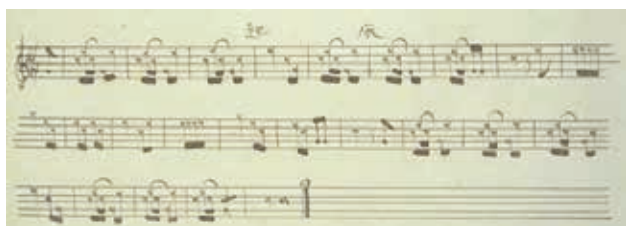
〔タイトルなし〕 Les refrains des compagnies(4)
 〔タイトルなし〕 Les refrains des compagnies(5)

このように、【日課号音】【招呼】【敬礼】【教練】(44～64頁)のラッパ信号、全72曲のうち、47曲が、『仏ラッパ譜(1875)』にそのまま収録されている。

すべてのラッパ譜を例にあげて紹介することはできないが、比較的有名な曲をつかって説明しておく、「起床」〔譜例1〕は、『仏ラッパ譜(1875)』に「Le Réveil」〔譜例2〕として掲載されている曲と同じ譜面である。もちろん、厳密に比較をするなら、速度指定、ダ・カーポ(D.C.)やフィーネ(FIN)の有無の点で異なっており(いずれも、『偕行ラッパ譜A』には無い)、また、スラーのかかりかたも微妙に違っているが、ここではこの程度の差異については問わない(以下同様)。

また、「礼式」〔譜例3〕というタイトルの曲は、『仏ラッパ譜(1875)』の「Aux champs」〔譜例4〕と同一曲で、明治初期に——たとえば、1872年9月12日、鉄道開通の際に⁸——軍隊のラッパ手が吹奏をしていた「ヤーシャン」であることがわかる。これまで、文献に記載されている「ヤーシャン」が、幕末のラッパ譜『喇叭符号』(1866)に「陣営」というタイトルで収録されていることは既に知られているが、明治期に入ってから楽譜で確認できたのは、これが初めてではないと思われる。

同じように、幕末維新期の文献で頻出する「アッペル」



〔譜例1〕



〔譜例2〕



〔譜例3〕



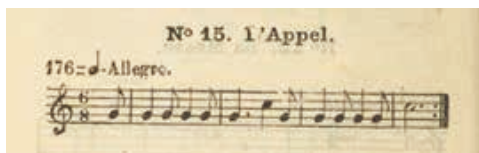
〔譜例4〕

⁸ 「明治五年九月十二日、鉄道開通につき新橋・横浜両所鉄道館へ車籠臨幸あらせられたが、新橋に着御の節「鉄道館内の近衛兵横隊に布列し捧銃式を行ひ喇叭「ヤーシャン」の曲を吹かしむ横浜も亦同じ」堀内敬三「音楽五十年史」(鱗書房 1942)18頁。1884年11月の文書にも「喇叭「アウシヤン」ヲ吹奏シ」とあり、明治十年代後半まで吹奏されていたことが判る(「嘉仁親王敬礼の儀」:「JACAR(アジア歴史資料センター)Ref.C04031252900、明治17年「大日記 11月水 陸軍省総務局」(防衛省防衛研究所))。

や「ラッペル」に該当すると思われる楽譜も、「点呼」〔譜例5〕、「集合」〔譜例7〕として確認できる。ただし、「ラッペル」という表記がフランス語の« L'Appel »〔譜例6〕なのか、「« L'Rappel »〔譜例8〕なのか、直ちに判断することは難しい。



〔譜例5〕



〔譜例6〕



〔譜例7〕



〔譜例8〕

〔タイトルなし〕とした楽曲が6曲あるが、一つ目の「〔タイトルなし〕」〔譜例9〕は、『仏ラッパ譜（1875）』の« La Retraite »〔譜例10〕と同じメロディなので、日本語のタイトルをつけるなら「退却」もしくは「帰営」になる⁹。3/8拍子で、下の「ド」からオクターブ半上の「ソ」までを使い、楽譜どおりに繰り返せば（やや複雑な）64小節の曲である。



〔譜例9〕



〔譜例10〕

タイトルが記されていない最後の5曲〔譜例11〕は、第1～5中隊の隊号« Les refrains des compagnies »〔譜例12〕の音の並びと同じなので¹⁰、日本でも「〇〇中隊」のラッパ信号として用いられたのであろう。



〔譜例11〕



〔譜例12〕

72曲（44～64頁）のうち47曲は『仏ラッパ譜（1875）』にも同じ曲が確認できたが、残りの25曲については、参照した『仏ラッパ譜（1875）』に同一の楽譜は確認できないものの、多くはフランスの楽曲に依拠している。

⁹ 同じ「退却」（33曲目）でも« En Retraite »とはメロディが異なる

¹⁰ 本来なら、中隊のラッパ譜は、後述する大隊のラッパ譜と同じく【軍隊・学校】のカテゴリに属すべきだが、『偕行ラッパ譜A』では、【教練】のラッパ譜の最後に記されている。

「早歩」¹¹、「駢歩」、「襲撃」¹²の3曲は、フランスの別のラッパ信号の冒頭の数小節と一致する。たとえば、「駢歩」〔譜例13〕は、「Le pas gymnastique」〔譜例14〕の冒頭4小節を転用している。全24小節の「Le pas gymnastique」は、これとは別に「かけ足」〔譜例15〕として収録されており、短い「駢歩」と長い「かけ足」は、用途によって使い分けられていたと思われる。



〔譜例13〕



〔譜例14〕



〔譜例15〕

「全〔拝命布達〕終」〔譜例16〕と「下土命令」〔譜例17〕は、「Le Garde-à-vous」〔譜例18〕の信号を転用している（『偕行ラッパ譜A』では「気ヲ付ケ」〔譜例19〕として記載）。「全〔拝命布達〕終」は「Le Garde-à-vous」を2度吹奏、「下土命令」は「Le Garde-à-vous」のあとに2つの付点4分音符を追加している。



〔譜例16〕



〔譜例17〕



〔譜例18〕



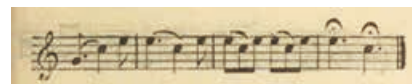
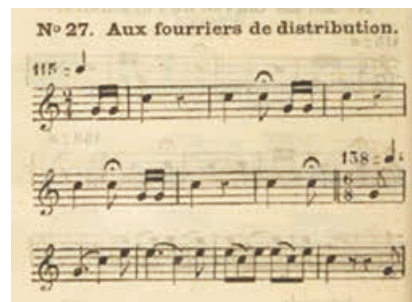
〔譜例19〕

他にも、『仏ラッパ譜（1875）』に同一の楽譜は掲載されていないものの、類似したメロディが掲載されているものとして、「掃除」「診断」「兵卒罪人呼」「下土罪人呼」「分隊合せ」「分配」がある。

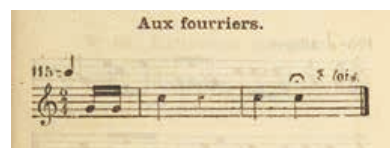
「分配」〔譜例20〕を例にあげると、「Aux fourriers de distribution」〔譜例21〕の譜面とよく似ている。「Aux fourriers de distribution」の冒頭6小節は、「Aux fourriers」〔譜例22〕（『偕行ラッパ譜A』では「給養軍曹呼」）のフレーズを3回繰り返す。しかし、「分配」は2回しか繰り返さない点で異なっているが、いずれにせよ、フランスのラッパ譜に依拠していることは確認できる。



〔譜例20〕



〔譜例21〕



〔譜例22〕

¹¹ « Le pas accéléré » の冒頭4小節。

¹² « Le pas de charge » の冒頭4小節。

「掃除」〔譜例23〕も「分配」のケースとよく似ていて、「掃除」とまったく同じ信号は、『仏ラッパ譜（1875）』には存在しないが、「La Corvée du quartier」〔譜例24〕に類似している。冒頭4小節のフレーズは、ラッパ信号「Aux caporaux」〔譜例25〕で、「La Corvée du quartier」はこれを3回繰り返すが、「掃除」は2回である。



〔譜例23〕



〔譜例24〕



〔譜例25〕

「診断」（« Aux malades »）、「兵卒罪人呼」（« Aux hommes punis »）、「下士罪人呼」（« Aux sous-officiers punis »）も同様で、3回繰り返す「Aux caporaux」のフレーズが、『偕行ラッパ譜A』ではいずれも2回になっている点が異なっているが、これが、筆者の誤記なのか、それとも2回で正しいのかは、わからない。ただし、「診断」〔譜例26〕については、別のフランスのラッパ譜（1869）¹³（以下『仏ラッパ譜（1869）』と略記）に2回で記されたバージョン「La visite du docteur」〔譜例27〕が存在すること¹⁴、「分配」「掃除」「兵卒罪人呼」「下士罪人呼」のどれもが2回で統一されていることから、誤記ではない可能性のほうが高い。



〔譜例26〕

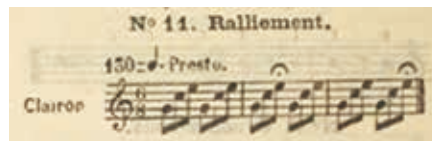


〔譜例27〕

「分隊合せ」〔譜例28〕と『仏ラッパ譜（1875）』の「Ralliement」〔譜例29〕は、記譜上の違いはあるが、鳴り響く音は、ほぼ同じである。『仏ラッパ譜（1869）』には、「分隊合せ」と同じ書きかたの「Ralliement par quatre」〔譜例30〕が掲載されているので、記譜上の表記はフランスにおいても必ずしも一定ではなかったようだ。



〔譜例28〕



〔譜例29〕



〔譜例30〕

『偕行ラッパ譜A』の「右二向キ替へ」「左二向キ替へ」「援隊合せ」「豫備隊合せ」の4曲も、『仏ラッパ譜（1875）』には掲載されていないものの、『仏ラッパ譜（1869）』には、それぞれ「Changer de direction à droite」、「Changer de direction à gauche」、「Ralliement sur le réserve」、「Ralliement sur le bataillon」として掲載されている¹⁵。

そうすると、『偕行ラッパ譜A』は、『仏ラッパ譜（1869）』を底本としたように思えるかもしれないが¹⁶、逆に『仏ラッパ譜（1869）』には、「番喬伍長呼」「騎兵右方ヨリ襲来」など、『仏ラッパ譜（1875）』には掲載されている数曲が欠落している¹⁷。

¹³ *Méthode de clairon d'ordonnance.* / A. Lagard (1869)

¹⁴ ただし、前半部分を2回繰り返す点は共通しているが、「ド」の音の回数、音価は異なる。

¹⁵ ただし、本来「Ralliement sur le réserve」の日本語訳は「援隊合せ」ではなく「豫備隊合せ」、「Ralliement sur le bataillon」は「予備隊合せ」ではなく「大隊合せ」のはずだが、『偕行ラッパ譜A』は「援隊合せ」「豫備隊合せ」となっている。

¹⁶ 他にも「半小隊合せ」「小隊合せ」は、『仏ラッパ譜（1875）』には掲載されていないが、『仏ラッパ譜（1869）』には掲載されている。

¹⁷ 他には「兵卒罪人呼」「下士罪人呼」「控兵呼」「一般命令」など。

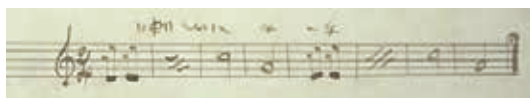
〔異稿〕の11曲についても少しだけ説明しておく、〔譜例31〕1段目の「te n ko」（異稿）は、音の巡りは「点呼」〔譜例5〕と同一だが、6/8拍子が2/4拍子に、「4分音符+8分音符」のリズムパターンが「付点8分音符+16分音符」に変更されている。〔譜例31〕2～3段目の「掃除」（異稿）は、「掃除」〔譜例23〕の最後の2小節をカットしている（それにより、『仏ラッパ譜（1875）』の「La Corvée de l'ordinaire」〔譜例32〕に近似）。〔譜例31〕3段目右の「喇叭手呼」（異稿）は、「喇叭手呼」〔譜例33〕の音価を1/2にしたものだが、このバージョンは、『仏ラッパ譜（1869）』にも掲載されている〔譜例34〕。



〔譜例31〕



〔譜例32〕



〔譜例33〕



〔譜例34〕

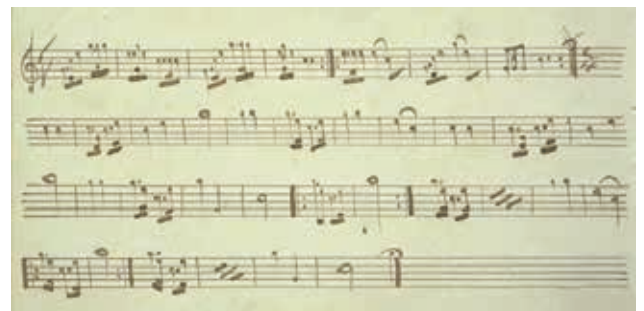
つまり、72曲のうちの64曲は、（類似しているものも含め）フランスのラッパ譜に依拠していることが確認できる。だが、残りの8曲（「士官呼」「下士呼」「楽手呼」「鋤兵呼」「靖国神社参拜式」「前衛」「後衛」「外套着脱」）については、『仏ラッパ譜（1875）』『仏ラッパ譜（1869）』だけでなく、他の年代のラッパ譜も参照したものの¹⁸、見つけることができなかった。

もちろん、筆者が未だ閲覧していないラッパ譜にこの8曲が収録されている可能性は十分にあるだろう。しかし、このなかの【敬礼】の「靖国神社参拜式」〔譜例35〕という曲については、軍隊にとって重要な固有名詞をタイトルに含む点で、既存のフランスのラッパ信号を転用するのではなく、日本で作られたのではないかと推測したくなる¹⁹。これと同様のことは、【軍隊・学校】のシグナルについても言うことができる（後述）。



〔譜例35〕

ところで、『偕行ラッパ譜A』の70頁に掲載されているタイトルの無い楽譜〔譜例36〕は、2段目から始まるメロディが「靖国神社参拜式」と同じである。ただし、3段目の途中から別のメロディ16小節が続いているので、「靖国神社参拜式」の異稿と思われる。1段目の7小節は、これとは別の曲であるようにも読めるが、フェルマータ記号に「×」が付けられていて、その直後に（次段にではなく）「2/4」の拍子記号が記されているので、この1頁全体が「靖国神社参拜式」の異稿とみなしたほうがよい。



〔譜例36〕

¹⁸ *Méthode pour le clairon simple.* / G. Tilliard (1857)

Méthode adoptée pour l'étude des sonneries dans les bataillons de marins fusiliers et les compagnies de débarquement à bord des bâtiments de la flotte. / J. Dumaine (1864)

Méthode complète pour clairon d'ordonnance. / P. Clodomir (1865)

Méthode pour le clairon. / F. Carnaud (1870).

Manuel des petites armes et exercices divers. / J. Dumaine (1877)

Règlement du 29 juillet 1884 sur l'exercice et les manœuvres de l'infanterie : batteries et sonneries. / Ministère de la guerre (1885)

Méthode de tambour. / N. Pita (1885)

¹⁹ 靖国神社は、1879年に社名を招魂社から改称したので、ラッパ譜「靖国神社参拜式」が作曲されたのであれば、1879年以降になる。

2-2. 【軍隊・学校】

44～70頁に掲載されている116曲のうち、前節で扱わなかった残りの32曲（65～69頁）は、陸軍の各組織に与えられたラッパ信号で、【軍隊・学校】として分類できる（本論文64頁の〔表3〕参照）。

「團歩」「團工」「士官校」「戸山校」「近衛工兵」「東京鎮台工兵大隊」「仙台工兵」「名古屋工兵」「大坂工兵」「広島工兵」「熊本工兵」「近衛歩兵」「近衛一聯隊」「全二聯隊」「鎮台一聯隊」「全二聯隊」「全三聯隊」「全四聯隊」「全五聯隊」「全六聯隊」「全七聯隊」「全八聯隊」「全九聯隊」「全十聯隊」「全十一聯隊」「全十二聯隊」「全十三聯隊」「全十四聯隊」「歩兵第一大隊」「全二大隊」「全三大隊」「十八聯隊」

その最初のページ〔譜例37〕をみればわかるように、だいたい4小節程度の短いシグナルが並んでいる（ちなみに「團歩」は「陸軍教導団歩兵大隊」、「團工」は「陸軍教導団工兵隊」、「戸山校」は「陸軍戸山学校」を意味する）。また、〔譜例38〕の右ページの「十八聯隊」だけは、あきらかに筆記具のインクの色が異なっており、しばらく時間をおいてから記入されたことがうかがえる。

フランスのラッパ譜を参照すると、この32曲のなかで、「歩兵第一大隊」「全二大隊」「全三大隊」については、『仏ラッパ譜（1869）』に同一の楽譜を発見できる²⁰。しかし、他の29曲については、少なくとも筆者が閲覧した複数のフランスのラッパ譜に同じ曲を見つけることはできなかった。

もちろん、——これは常につきまとう問題だが——私が閲覧していないラッパ譜に、当該曲が存在する可能性はある。しかし、フランスのラッパ譜に確認できる3曲と、確認できない29曲には、明らかな違いがある。それは、大隊は、どの部隊にも存在する下部組織で、ラッパ信号「〇〇大隊」は、日本中のどこでも用いられる点で汎用性のある信号である。しかし、29曲の個々の組織は、すべて軍隊における唯一の組織である。たとえば、「鎮台一聯隊」のラッパ信号（〔譜例39〕の左）は、東京鎮台の歩兵第一聯隊のみが使う信号であり、他で使われることは無い。軍隊における唯一の組織に対して付与されたラッパ信号のすべてが、フランスの楽譜に確認できないことは、偶然の一致とは考え難い。このことは、「唯一の組織に対しては既存のフランスのラッパ譜から借用するのではなく、オリジナルのラッパ信号を作成する」というような方針があったことを強く示唆している²¹。「靖国神社参拜式」もこの方針に沿って作成されたのではないだろうか。



〔譜例37〕



〔譜例38〕



〔譜例39〕

²⁰ 「歩兵第一大隊」は「11^e Bataillon」、「全二大隊」は「6^e Bataillon」、「全三大隊」は「9^e Bataillon」をあてている（いずれも『仏ラッパ譜（1869）』）。

²¹ そもそも、フランスのラッパ譜には大隊(bataillon)や中隊(compagnie)のラッパ譜は存在するが、聯隊(régiment)のシグナルや、地名などの固有名詞のついた個々の組織団体についてのラッパ信号は、管見の限りでは存在しない。

ところで、この【軍隊・学校】のラッパ信号の一部の曲については、文献に記録が残っている。西南戦争を記録した陸軍の資料によると、

第十四聯隊兵八其第一大隊第二中隊（…）熊本城二達ス是時坪井二在ルノ賊去テ未タ幾ハクナラス故ニ城中ノ兵我ヲ認テ賊ト為シ狙撃止マス喇叭ヲ以テ之ヲ止ムルモ亦タ應セス聯隊ノ記號ヲ吹奏シ始テ入城スルヲ得タリ時正二午後七時ナリ²²（下線、引用者）

1877年4月14日、政府陸軍の第14聯隊第1大隊第2中隊（小倉）は、西郷軍に包囲されていた熊本城によく到達したのだが、城中の熊本鎮台兵は、かれらを西郷軍と誤認して狙撃してくる。そこで、ラッパで（おそらく）「打ち方止メ」を吹奏したが止まなかったので、「聯隊ノ記號ヲ吹奏」し、ようやく熊本城に入城することができたという。熊本城に籠城していた熊本鎮台の兵隊たちが、「聯隊ノ記號」によって味方（第14聯隊）であることを認識したということなので、この「聯隊ノ記號」とは、『偕行ラッパ譜A』に掲載の「鎮台十四聯隊」（『譜例38』の左ページ2段目右）のラッパ信号にちがいない。

他にも、西南戦争時の資料には、官軍が「第一聯隊」「第二聯隊」のラッパ信号を暗号として用いようとした記録²³、「第十聯隊之譜号」を集合の合図に用いようとした記録を確認できる²⁴。つまり、「〇〇聯隊」のシグナルは、1877年までには誕生していたことになる。

また、アジア歴史資料センターには、1883年5月の「教導団ヨリ各工兵隊喇叭オルフラン之義ニ付上申之件」²⁵というタイトルがつけられた文書があり（「オルフラン」は、フランス語の「refrain」）、

近衛 各鎮台 及 教導団 工兵隊 二号喇叭綴譜別紙之通相定候条此旨相達候事

つまり、近衛、各（6つの）鎮台、教導団、それぞれの工兵隊の「号喇叭綴譜」を定めたという。したがって、『偕行ラッパ譜A』の「團工」、「近衛工兵」、「東京鎮台工兵大隊」、「仙台工兵」、「名古屋工兵」、「大坂工兵」、「広島工兵」「熊本工兵」の8曲のラッパ信号は、1883年5月に制定されたことになる。

話が前後するが、既に指摘したように【軍隊・学校】の最後に記された「十八聯隊」（『譜例38』）は、明らかに別イソクで後から書き足されている。第18聯隊は、1884年

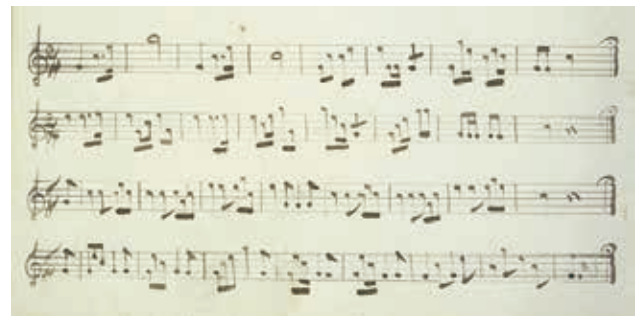
夏に名古屋に創設された。このことから、『偕行ラッパ譜A』の【軍隊・学校】の部分は、各工兵隊のラッパ信号が制定された1883年5月以降から1884年春頃までのあいだに筆写され、第18聯隊が創設された1884年夏以降になって（第18聯隊のラッパ信号が制定されてから）²⁶、ラッパ譜「十八聯隊」が書き加えられたことになる。

2-3. 行進曲

『偕行ラッパ譜A』の34頁、36～41頁、84頁、88～148頁の4箇所には、行進曲が記されている。

まず、36～41頁には192小節（1～12番）の行進曲の、1番と2番が記載されたページ（『譜例40』）の1段目の冒頭4小節）に注目すると、すでに説明をした【軍隊・学校】の「鎮台一聯隊」のラッパ信号、また3段目の冒頭4小節は「二聯隊」のラッパ信号であることが判る（『譜例39』を参照）。3番以降を調べても、すべて冒頭4小節は「〇〇聯隊」のラッパ信号であるため、これはそれぞれの「聯隊の行進曲」と呼んでもよい。「〇〇聯隊」のラッパ信号が日本で作られたのなら、この行進曲も日本で作られたことになる。

また、34頁の「教導団歩兵大隊」「士官学校」（84頁にもこの2曲が記載）も、【軍隊・学校】のラッパ信号「團歩」「士官校」を用いた16小節の行進曲である。



〔譜例40〕

88～148頁には1～115番の行進曲が掲載されていて、筆者は1～115番を、意識的に3つの独立したセクション（1～97番、98～109番、110～115番）として区別して記している²⁷。ここでは、1～97番を「A-1」、98～109番を「A-2」、110～115番を「A-3」としておく。

ただし、この行進曲について詳しく検討する前に、まず『偕行ラッパ譜B』の説明を済ませておきたい。なぜならA-1～A-3は、『偕行ラッパ譜B』に収録されている行進曲

²² 参謀本部陸軍部編纂課編『征西戦記稿』巻之20（1887）、13頁。『熊本鎮台戦闘日記附録 但十四聯隊之部』（1882）にもほぼ同様の記述がある。

²³ 「6月17日 喇叭暗号記号共別紙の通相定相達 総督本営」JACAR（アジア歴史資料センター）Ref.C09084908000、来翰綴 第2号 明治10年5月1日～10年6月29日（防衛省防衛研究所）。これと同時期の資料「野津大佐 豊後地方相定暗号記号等の儀」には、「喇叭号之義八聯隊譜ノ如キ新古之区別も有之喇叭卒中不熟之者も有之況や一般軍人に於テハ往々不心得之者可有」とあり、「聯隊」のラッパ信号が汎用性がなかったことを裏づけている。

²⁴ 「中隊の緊急集合に使うラッパ譜号の届出 水野大尉」JACAR（アジア歴史資料センター）Ref.C09084530900、雑書 明治10年5月1日～10年5月30日（防衛省防衛研究所）。

²⁵ 「5_24 教導団より各工兵隊喇叭オルフランの義に付上申の件」JACAR（アジア歴史資料センター）Ref.C09071344800、明治16年 第3号審按12 従4月至6月（防衛省防衛研究所）。

²⁶ 『歩兵第十八聯隊歴史』（稲富書店 1913）によると、歩兵第18聯隊は1884年5月に名古屋で「編成ヲ創メ」、同年7月1日に「編成全ク成リ」、8月15日に「東京宮中ニ於テ軍旗ヲ御親授」、1885年4月29日に衛戍地の豊橋に移転とある。ラッパ譜についての記述は無いが、ラッパ譜「十八聯隊」が制定されたのは、1884年5月以降の、それほど遠くない時期とみてよいだろう。

²⁷ 97番と98番の間には2段の空五線があり、明確に区別している。また、110～116番は最初の段にのみト音記号が記されていて、各段にト音記号が記された109番までとは、書式が異なり、区別をしているように読み取れる。

の大部分と共通しているからである。

3. 『偕行ラッパ譜B』

『偕行ラッパ譜B』は、『偕行ラッパ譜A』と同型の黒表紙、130頁の白紙の手帳で、手書きで五線が記されている。やはり、筆記者やタイトルなどの情報はとくに記載されていない。空五線の頁や白紙頁もあるが、音符が記されている頁は一箇所にまとまっている。音符の筆跡は、『偕行ラッパ譜A』の筆記者と似た非常に丁寧なものなので、同一人物のように思える。

楽譜は、5頁から75頁に行進曲だけが収録され、【日課号音】や【軍隊・学校】などのラッパ信号は存在しない。『偕行ラッパ譜A』の行進曲と同じく、個々にタイトルや、何番かを示す数字などは何も無いが、全体では2326小節、1～132番で構成されている。

多くは16小節単位で1番になっている（18小節、20小節、24小節、36小節単位の部分もある）。拍子は1～121番までは2/4拍子だが、最後の122～132番だけは6/8拍子である。

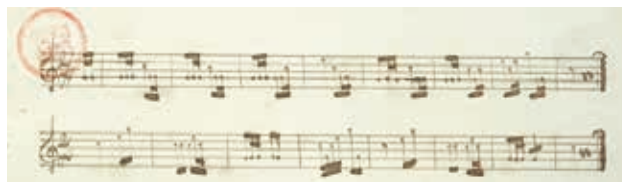
ところで、先の『偕行ラッパ譜A』の行進曲「A-1」「A-2」「A-3」は、すべて『偕行ラッパ譜B』の行進曲に含まれている（本論文65～67頁の【表4】参照）。

『偕行ラッパ譜B』	『偕行ラッパ譜A』
1～97番	「A-1」
98～109番	「A-3」
110～117番	「A-2」

『偕行ラッパ譜A』は、なぜ「A-1」「A-3」「A-2」の順序に記したのか、その理由は分からないが、『偕行ラッパ譜B』のほうが計画的に筆写している印象を受けることや、『偕行ラッパ譜A』には存在しない118～132番を含む点で、原典に近いのは『偕行ラッパ譜B』ではないかと考えられる²⁸。

『偕行ラッパ譜B』の行進曲1～117番（つまり『偕行ラッパ譜A』の「A-1」「A-3」「A-2」）2052小節には、フランスのラッパ譜と共通する部分があくつかある。たとえば、

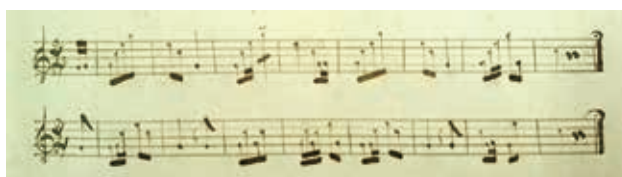
『偕行ラッパ譜B』の1番の前半8小節【譜例41】は、『仏ラッパ譜（1869）』²⁹の「Marche」【譜例42】と、また、14～15番【譜例43】は、やはり『仏ラッパ譜（1869）』に掲載されている「Vingt pas accélérés originaux」の1～2番【譜例44】と一致している。16番【譜例45】は、『仏ラッパ譜（1875）』³⁰や『仏ラッパ譜（1869）』に掲載されているラッパ譜「Le pas accéléré」【譜例46、譜例47】を、そのまま行進曲の一部として用いている³¹。



【譜例41】



【譜例42】



【譜例43】

【表2】『偕行ラッパ譜B』

頁	1-4	5-75	76-108	109-130
内容	白紙	楽譜 行進曲 (132番)	空五線	白紙

²⁸ 煩雑になるので本文中では説明をしていないが、実は『偕行ラッパ譜B』を基準として「A-1」を対照させると、1～26番の順序が、「1～2、23～26、19～22、15～18、11～14、7～10、3～6」と異なっている。おそらく、Aの筆記者が写譜をする際に順序を取り違えたと思われる（底本が乱丁？）。

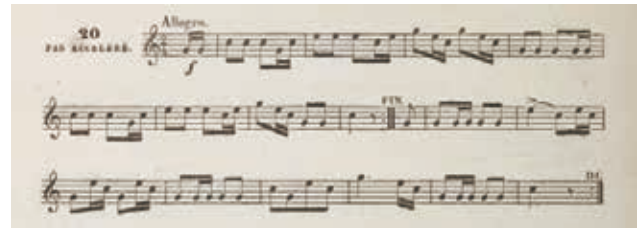
²⁹ *Méthode de clairon d'ordonnance*, 1869

³⁰ *Règlement du 12 juin 1875 sur les manœuvres de l'infanterie*. / Ministère de la guerre, 1877.

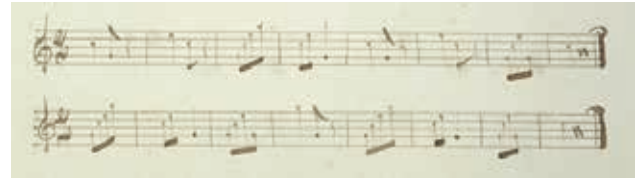
³¹ 後半冒頭のアウフタクトの8分音符は、『仏ラッパ譜（1869）』と一致する（『仏ラッパ譜（1875）』には該当する音がない）。



〔譜例44〕



〔譜例47〕



〔譜例48〕



〔譜例45〕



〔譜例49〕



〔譜例46〕

『仏ラッパ譜（1875）』に掲載されているラッパの行進曲「Marches pour clairon seul」は全10曲で構成されているが、『偕行ラッパ譜B』との対応関係は、以下の通りである（『偕行ラッパ譜B』の6番〔譜例48〕、『仏ラッパ譜（1875）』の第1曲〔譜例49〕）。

『偕行ラッパ譜B』	『仏ラッパ譜（1875）』
6	PREMIÈRE MARCHÉ〔1〕
13	DIXIÈME MARCHÉ〔10〕
59	DEUXIÈME MARCHÉ〔2〕
60	TROISIÈME MARCHÉ〔3〕
61	QUATRIÈME MARCHÉ〔4〕
62	CINQUIÈME MARCHÉ〔5〕
63	SIXIÈME MARCHÉ〔6〕
64	SEPTIÈME MARCHÉ〔7〕
65	NEUVIÈME MARCHÉ〔9〕

『偕行ラッパ譜B』の59番から64番までの6曲は、「Marches pour clairon seul」の第2曲から第7曲までの6曲に対応しているが、なぜか6番と13番は遠く離れていること、「Marches pour clairon seul」の第8曲が『偕行ラッパ譜B』には存在しないことなど、不可解なところはある。

同じように『偕行ラッパ譜B』の66番から73番には、『仏ラッパ譜（1875）』の「Marches avec tambours et clairons réunis」（全10曲）が用いられているが、前者には後者の第4曲、第5曲が欠落し、『偕行ラッパ譜B』の71番は拍子が2/4に変更され（「SEPTIÈME MARCHÉ」は6/8）、72番は音が少し異なるなど、やはり完全に一致しているわけではない。

『偕行ラッパ譜B』	『仏ラッパ譜（1875）』
66	PREMIÈRE MARCHÉ〔1〕

- 67 DEUXIÈME MARCHE〔2〕
- 68 TROISIÈME MARCHE〔3〕
- 69 SIXIÈME MARCHE〔6〕
- 70 SEPTIÈME MARCHE〔7〕
- 71 HUITIÈME MARCHE〔8〕
- 72 NEUVIÈME MARCHE〔9〕
- 73 DIXIÈME MARCHE〔10〕

また、『仏ラッパ譜（1875）』の「Marches de retraite pour clairon」全10曲は、欠落することなく『偕行ラッパ譜B』に用いられているものの、74～75番、78番が離れていて（しかも、78番は『仏ラッパ譜（1875）』の第2曲の前半だけが一致）、93番はメロディが少し異なるなどの相違がある。やはり順序は完全に対応しているわけではない。

『偕行ラッパ譜B』	『仏ラッパ譜（1875）』
74	QUATRIÈME MARCHE〔4〕
75	PREMIÈRE MARCHE〔1〕
78	DEUXIÈME MARCHE〔2〕
91	TROISIÈME MARCHE〔3〕
92	CINQUIÈME MARCHE〔5〕
93	SIXIÈME MARCHE〔6〕
94	SEPTIÈME MARCHE〔7〕
95	HUITIÈME MARCHE〔8〕
96	NEUVIÈME MARCHE〔9〕
97	DIXIÈME MARCHE〔10〕

『偕行ラッパ譜B』の85～90番は、1865年のフランスのラッパ譜に掲載されている「Trente pas accélérés」の1～6番を用いているが³²、後者は1番が16小節単位であるのに対して、後者はすべて4小節付加されて20小節単位になっている（本論文65～67頁の【表4】参照）。

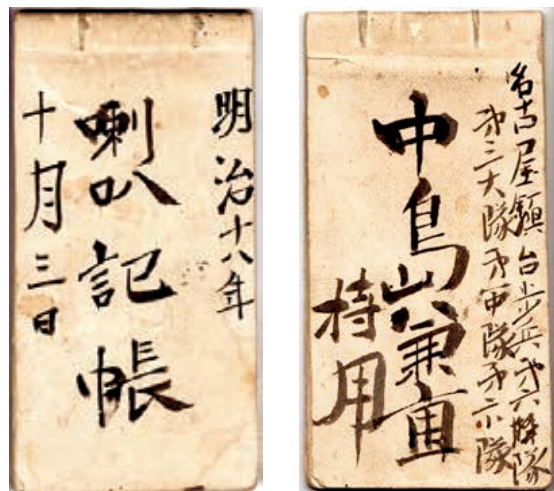
全体的にみると、『偕行ラッパ譜A』と『偕行ラッパ譜B』に共通する行進曲2052小節（1～117番）のうち、約30%がフランスのラッパ譜に依拠している。しかしながら、曲順などの点で、フランスのラッパ譜を転写したとは考えにくい。もちろん、底本となった楽譜が他に存在するかもしれないが、それよりもむしろ、音の微妙な相違、順序が逆になったり、遠く離れていたり、かとおもえば思い出したように連続しているところもあったり、あるいは忘れたかのように欠落してしまっている様相から、この一連のラッパの行進曲の作成には、記憶（の気まぐれ）が大きな役割を果たしたことを暗に示しているように思える³³。

フランスのラッパ譜に見出すことができなかつた残りの約70%については、未見のフランスのラッパ譜に存在する可能性も、日本で作成された可能性も、どちらも考えら

れるが、記憶されていたメロディと、新しく創作したメロディが混在した、一種のアレンジとするのが妥当ではないだろうか。

4. 名古屋鎮台の『喇叭記帳』

筆者の手元にある『喇叭記帳』³⁴は、8.5cm×18cmの紐綴じの手帳で、すべてのページに手書きの五線譜が記されている。



表紙には日付「明治十八年／十月三日」、裏表紙には「名古屋鎮台歩兵第六聯隊／第三大隊第一中隊第二小隊／中島兼重／持用」と記されていて、筆記された年月日と筆者が特定できる点で前述の靖国偕行文庫のラッパ譜とは大きく異なる。ただし、文字・音符は読みにくく、しかも五線譜の記譜法のルールに則っていないので、楽曲の特定は極めて困難である。しかし、『偕行ラッパ譜A』『偕行ラッパ譜B』を参照することによって、ほぼすべてが解読できる（本論文63～64頁の【表3】参照）。ただし、全42頁の後半部分（22～42頁）の全102曲は、1885（明治18）年12月3日に制定された『陸海軍喇叭譜』のラッパ譜を写譜したものなので除外し、前半部分を対象とする。前半部分は全91曲あり、内訳は【日課号音】【招呼】【敬礼】【教練】が53曲、【軍隊・学校】が37曲、【行進曲】は「六聯隊まるす」というタイトルの1曲の行進曲（1～13番）が収録されている³⁵。

冒頭ページ【譜例50】を例にすると、「おこ志」「志んき」「志よくじ」「そうじ」「しんだん」「くゑきよび」の6曲で、最初の「おこ志」の場合、タイトルから推理して「起床」のラッパ譜【譜例1】を対照させてみると、音価はかなり異なるが、音の巡りは同一であること³⁶、つまり、フ

³² *Méthode complète pour clairon d'ordonnance.* / P. Clodomir (1865)

³³ もちろん、ラッパの行進曲は、フランスにおいても様々な曲順で演奏・記譜されていたかもしれない。あるいは、そもそも楽譜に書き残されることのほうが稀で、主に口頭で伝承されていた流動的な音楽文化である可能性もある。

³⁴ 現在は静岡文化芸術大学附属図書館蔵。

³⁵ ただし、『喇叭記帳』も【日課号音】【招呼】【敬礼】【軍隊・学校】【行進曲】といったカテゴリは明示されていない。

³⁶ 『喇叭記帳』に限らず、明治期のラッパ譜は、五線の第二間（ト音記号の「ラ」）に「ソ」の音を記すことが多い。

ランスのラッパ譜「Le Réveil」〔譜例2〕であることが判明する。

他のラッパ譜についても同様で、53曲中の49曲は『偕行ラッパ譜A』と共通していること、つまり、多くはフランスのラッパ譜に依拠していることがわかる。ただし、「そうじのおハリ」に該当する曲は『偕行ラッパ譜A』ではなく、楽譜は「Le Garde-à-vous」〔譜例18〕をあて、「ヤゑお古しはるよい」(?)も『偕行ラッパ譜A』にはないが、楽譜はフランスのラッパ譜の「Marche」〔譜例42〕をあてている。「やゑのふ」(野営の譜?)は『偕行ラッパ譜A』やフランスのラッパ譜にも見あたらない。

【軍隊・学校】のラッパ譜37曲も、ほぼ『偕行ラッパ譜A』と共通する(『喇叭記帳』には「十九聯隊」が記載されている)³⁷。「〇〇大隊」「〇〇中隊」の7曲ラッパ譜を例外として、これら30曲に該当する楽曲はフランスのラッパ譜にはまったく見あたらない。

【行進曲】は、1番～13番の「六聯隊まるす」という行

進曲が記載されている(筆記者の中島兼重が名古屋鎮台の第6聯隊に属していたことと符合する)。

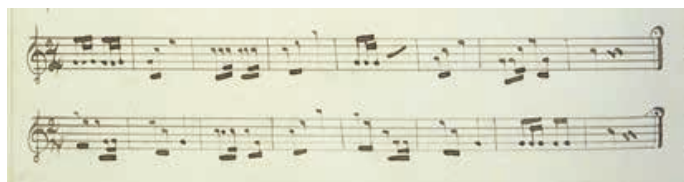
「六聯隊まるす」の最初の頁〔譜例51〕の上2段(数字は記されていないが1番)は、『偕行ラッパ譜A』の36～41頁に掲載されている「聯隊の行進曲」の6番目の楽曲〔譜例52〕で、そのあとに続く2番～13番は、『偕行ラッパ譜B』の1番～12番の行進曲が用いられている(本論文65頁の〔表4〕参照)。推測の域をでるものではないが、ひょっとするとこれは当時の行進曲の演奏実践の一例かもしれない。『偕行ラッパ譜B』に掲載されているような2000小節を超える長大な行進曲は、全体を1曲として演奏するのではなく、自分が所属する聯隊の信号が含まれる「聯隊の行進曲」を冒頭に置き、そのあとは2000小節の行進曲の中から選択して、1曲を構成した——六聯隊における実例が『喇叭記帳』には記されている——と考えられる。



〔譜例50〕



〔譜例51〕



〔譜例52〕

³⁷ 帝国聯隊史刊行会『歩兵第十九聯隊史』(1918)によると、歩兵第19聯隊は、1885年5月30日に旧名古屋城場内に第一大隊が創設、1886年6月12日に聯隊本部と第二大隊を新設、同年8月23日に軍旗を親授、1887年5月26日に第三大隊が編成された。『喇叭記帳』の表紙にある日付(1885年10月3日)から推測すると、第一大隊が創設されたあとにラッパ譜「十九聯隊」が制定されたことになる。

5. まとめ

ほぼ同時期に作成された可能性の高い3点の楽譜—『偕行ラッパ譜A』『偕行ラッパ譜B』『喇叭記帳』—の検証によって判明したことを順次挙げておく。

まず、『偕行ラッパ譜A』や『喇叭記帳』に掲載されている【日課号音】【招呼】【敬礼】【教練】のラッパ譜は、ほとんどがフランスのラッパ譜に同じ曲を確認することができ(約70曲)、それとは対照的に、【軍隊・学校】のラッパ信号は、汎用性のある大隊、中隊については、フランスのラッパ譜を借用しているが、それ以外の約30曲はフランスのラッパ譜には存在しない。大隊・中隊以外の【軍隊・学校】のラッパ信号は、すべて日本の軍隊における唯一の組織に与えられたシグナルであることから、日本で作られたオリジナルのラッパ譜であることを強く示唆している。

【敬礼】のラッパ譜「靖国神社参拜式」のように、軍隊にとってきわめて特別な意味をもつ楽曲も、既存のフランスの楽曲を転用するわけにはいかず、独自のメロディを必要としたとしても不思議ではない³⁹。

もちろん、未見のフランスの(ひょっとしたら、フランス以外の国々の)ラッパ譜に、同一の楽譜が見つければ、この結論は直ちに修正されるべきだろう。

同じようなことは【行進曲】についても言える。『偕行ラッパ譜A』や『偕行ラッパ譜B』に収録されている2000小節をこえる長大な楽曲は、部分的にはフランスの行進曲が用いられていたが、順序の相違、欠落している部分などもある。なによりも過半の部分(約70%)は、フランスのラッパ譜に同一曲を見つけたことができている。したがって、フランスの行進曲は所々で素材として借用されながら、全体としては新たな行進曲が作曲されたこととみなしたほうが、妥当であるように思える。もっとも「作曲された」というよりは、新たに「再構成された」というほうが実態に即しているかもしれない。

ところで、そうした曲が日本で作曲されたとすれば、では、いったい誰が作曲をしたのか、という問題が浮上してくる。ラッパで使用されるのは「ド・ミ・ソ」だけなので、音楽としては単純だが、文部省の『小学唱歌集』ですら、ほとんどが西洋の曲を転用した時代である。この時期に2000小節をこえる行進曲や、「靖国神社参拜式」を作曲する能力をもつ日本人が(陸軍軍楽隊の外部を探しても)存在したとは思えない。そうすると、真っ先に思い浮かぶのは、第2次フランス軍事顧問団の一員として、明治5年から陸軍のラッパ教師をつとめていたG. C. ダグロンだろ

う⁴⁰。『偕行ラッパ譜B』の行進曲の分析から窺えることは、フランスのラッパの行進曲をよく知っていて(おそらく、ラッパの楽譜を所有しているということではなく、頭のなかに記憶していて)、それを思い出しつつ、新たな行進曲を再構成できるのは、フランス人のラッパ手でなければできない芸当であるからである。フェントンやルルー、エッケルトの陰に隠れがちな人物であるが、再評価が必要である。

『喇叭記帳』は、当時のラッパ伝習の様子もよく伝えている。中島兼重が書いた楽譜は、音符の長さ(音価)が不正確で、小節線(縦線)の引いてある場所も不規則なので、1小節あたりの拍数もデタラメである。これは当時の兵隊の音楽能力の低さを示す証拠にしか見えないかもしれない。しかし、よく観察すると、筆者の中島兼重は、音符を書く作業の際に「楽譜」を写譜していないことがわかる(もし楽譜を「写譜」したのであれば、『喇叭記帳』のような楽譜には、決してならない)。しかも、音程については正確に記されているので、筆者である中島が、ラッパ手による吹奏を聴いて、それを紙に記録したことをよく示している。少なくとも名古屋鎮台では楽譜はあまり用いられず、口頭伝承的なラッパ教習がおこなわれており、中島の前で模範演奏を行った人物も、正確に吹奏していた。中島は唱歌教育を受けていない世代であり(仮に1885年当時、20歳なら、1865年生まれ)、その世代が記したものとすれば、かなり正確な備忘録を残したことになる。また、口頭伝承による教習が一般的であったのであれば、現在、この時期のラッパに関する楽譜資料がほとんど現存せず、研究が難しかったことも納得できる。

実は、2冊の偕行文庫のラッパ譜には、多くのラッパ譜が記されているものの、それだけでは「演奏」の証拠にはならない。しかし、『喇叭記帳』は、少なくとも記載されている曲については、間違いなく「演奏」をおこなっていた証拠となる。おそらく名古屋鎮台だけではなく、各地の鎮台でも、フランスのラッパ信号を含む数多くの音楽が鳴り響いていただろう。

1885年12月3日に『陸海軍喇叭譜』が制定されたことにより、陸軍はそれまでのラッパ譜を用いなくなった。明治後期にラッパ譜が消防組のラッパ譜として転用されたこともあったが、明治前期の陸軍は「フランスのラッパ譜を使った」ということ以外は(日本で作られた可能性のある楽曲もあるのだが)、人々の記憶から忘れ去られた⁴¹。

³⁸ 『偕行ラッパ譜A』は、1885年10月3日の日付のある『喇叭記帳』と収録曲がほぼ一致し、また『偕行ラッパ譜A』の行進曲(2052小節)が『偕行ラッパ譜B』の行進曲と一致する。さらに、『偕行ラッパ譜A』は1883~1884年頃に作成された可能性が高いことから、『偕行ラッパ譜B』もほぼ同じ時期に作成されたと推測できる。

³⁹ 本文中で述べたように、1877年には「鎮台一聯隊」から「十四聯隊」までのシグナルが存在していたこと、1883年5月には各工兵隊のラッパ信号が新たに制定され、さらに後になって第18聯隊や第19聯隊のラッパ譜も制定されている。これらのことから、どうやら陸軍の組織拡大に伴って、次々に新たな信号が創作されていたらしい。実は、この方針自体は『陸海軍喇叭譜』(1885)以降も引き継がれていたが、曲数があまりにも多くなりすぎて、明治30年代になると破綻することになる。

⁴⁰ ダグロンは1873年来日し、1883年3月に離日している(中村理平「洋楽導入者の軌跡」(刀水書房1993))。

⁴¹ ところが、筆者がオークションで手に入れた1枚のSPレコードが、新たな課題を突き付けてくる。「歩兵第一聯隊」のラッパ隊が、おそらく昭和初期あたりに録音したと思われる「中丸須行進曲」(獅子印 福泰留声機器公司317)というタイトルのレコードには、『偕行ラッパ譜B』の行進曲14~23番がほぼそのまま収録されている。つまり、1885年12月『陸海軍喇叭譜』制定以降、それまでのラッパ譜は公式には使われなくなったが、歩兵第一聯隊では「中丸須行進曲」として、部分的に伝承されていたことになる。

※本研究は文部科学省科学研究費、基盤研究(C)「近代日本におけるラッパ受容に関する基礎的研究」(16K02343)の成果の一部です。

〔表3〕『偕行ラッパ譜A』、フランスのラッパ譜、『喇叭記帳』

	『偕行ラッパ譜A』	フランスのラッパ譜	『喇叭記帳』
	【日課号音】 【招呼】 【敬礼】 【教練】		
1	起床	Le Réveil	おこ志
2	点呼*	L'Appel	志"んき
3	掃除*	<i>La Corvée du quartier</i>	そうじ
4	喫食*	La Soupe	しよくじ
5	診断	<i>Aux malades</i>	しんだん
6	学科*	L'Ecole du premier degré	がつか
7	分レ	La Berloque	わかれ
8	士官呼		士官よび
9	下士呼		下士官よび
10	曹長呼	Aux sergents-majors	
11	周番軍曹呼	Aux sergents	
12	給養軍曹呼	Aux fourriers	
13	週番伍長呼	Aux caporaux	
14	楽手呼		
15	喇叭手呼*	Le Rappel	喇叭よび
16	銃兵呼*		銃兵よび
17	兵卒罪人呼*	<i>Aux hommes punis</i>	
18	下士罪人呼	<i>Aux sous-officiers punis</i>	くゑきよび
19	控兵呼	Au Piquet	ばんべよび
20	集合	Le Rappel	よひたし
21	呼集	L'Assemblée	じうたいあつまり
22	一般命令	A l'Ordre	めうれ
23	軍旗集合	Au Drapeau	仙たいあつまり
24	拝命布達	Le Ban	士官はいめんふたツしき
25	全終	<i>Le Garde-à-vous</i>	
26	下士命令	<i>Le Garde-à-vous</i>	下士めうれ
27	分配*	<i>Aux fourriers de distribution</i>	きうよひぶんばい
28	非常	La Générale	
29	〔タイトルなし〕	La Retraite	ひきあげ
30	靖国神社参拜式		さんばいしき
31	気ヲ付ケ	Le Garde-à-vous	きおつけ
32	消燈*	Extinction des feux	しようと
33	礼式	Aux champs	をうしやん
34	軍隊ニ應スル礼式	Aux champs en marchant	
35	早足	Le pas accéléré	
36	坂（マルス）	Le pas de charge	坂丸そ
37	かけ足	Le pas gymnastique	かけあし
38	前衛		ぜんゑ
39	後衛		こうゑ
40	外套着脱		
41	附ケ剣	Baïonnette au canon	ツけうけん
42	取レ剣	Remettre la baïonnette	とれけん
43	止レ	Halte	はる
44	散兵前へ	En avant	前エ
45	散解	En tirailleurs	ちれ
46	右向ケ	Par le flanc droit	右向
47	左向ケ	Par le flanc gauche	左向
48	退却	En retraite	ことゑ
49	伏臥	Couchez-vous	ねよ
50	起立	Levez-vous	おきよ
51	打方*	Commencez le feu	うちかた
52	全止*	Cessez le feu	うちかたやめ
53	分隊合せ	<i>Ralliement</i>	分隊合
54	半小隊合せ	Ralliement par demi section	半小隊合
55	小隊合せ	Ralliement par section	小隊合
56	早歩	<i>Le pas accéléré</i>	

	『偕行ラッパ譜A』	フランスのラッパ譜	『喇叭記帳』
57	駈歩	<i>Le pas gymnastique</i>	
58	早馳	Le pas de course	
59	右ニ向キ替へ	Changer de direction à droite	右ニむきおかエ
60	左ニ向キ替へ	Changer de direction à gauche	左ニむきおかエ
61	襲撃	<i>Le pas de charge</i>	
62	援隊合セ	Ralliement sur la réserve	ゑんたい合
63	豫備隊合セ	Ralliement sur le bataillon	
64	大隊集合	L'Assemblée	大隊よび
65	騎兵右方ヨリ襲来	Cavalerie venant à droite	
66	騎兵左方ヨリ全	Cavalerie venant à gauche	
67	全前方ヨリ全	Cavalerie venant sur le front	
68	〔タイトルなし〕	Les refrains des compagnies (1)	一中隊
69	〔タイトルなし〕	Les refrains des compagnies (2)	二中隊
70	〔タイトルなし〕	Les refrains des compagnies (3)	三中隊
71	〔タイトルなし〕	Les refrains des compagnies (4)	四中隊
72	〔タイトルなし〕	Les refrains des compagnies (5)	
		Le Garde-à-vous	そうじのおハリ
		<i>La Berloque</i>	しよくじぶんばい
		Marche	やゑお古しはろてよい(?)
			やゑのふ(?)
		Ralliement sur le bataillon	大隊合

【軍隊・学校】

1	団歩		歩兵東京山
2	団工		歩兵ノ工兵東京山
3	士官校		士官ガ古
4	戸山校		藤山ガ古
5	近衛工兵		近衛工兵
6	東京鎮台工兵大隊		工兵一大隊
7	仙台工兵		工兵一中隊
8	名古屋工兵		工兵二中隊
9	大坂工兵		工兵二大隊
10	広島工兵		工兵三中隊
11	熊本工兵		工兵三大隊
12	近衛歩兵		近衛いつぱん
13	近衛一聯隊		近衛一聯隊
14	全二聯隊		近衛二聯隊
15	鎮台一聯隊		歩兵一聯隊
16	全二聯隊		〔タイトルなし〕
17	全三聯隊		三聯隊
18	全四聯隊		四聯隊
19	全五聯隊		五聯隊
20	全六聯隊		六聯隊
21	全七聯隊		七聯隊
22	全八聯隊		八聯隊
23	全九聯隊		九聯隊
24	全十聯隊		十聯隊
25	全十一聯隊		十一聯隊
26	全十二聯隊		十二聯隊
27	全十三聯隊		十三聯隊
28	全十四聯隊		十四連隊
29	歩兵第一大隊	Refrain (11^e Bataillon)	壹大隊
30	全二大隊	Refrain (6^e Bataillon)	貳大隊
31	全三大隊	Refrain (9^e Bataillon)	三大隊
32	十八聯隊		十八聯隊
	「*」は異稿も収録		十九聯隊

フランスのラッパ譜 細字：Règlement du 12 juin 1875 sur les manoeuvres de l'infanterie./ Ministère de la guerre (1877)

斜体：類似曲が(1877)にアリ

太字：Méthode de clairon d'ordonnance. / A. Lagard (1869)

〔表4〕 行進曲

『偕行ラッパ譜B』	『偕行ラッパ譜A』			『喇叭記帳』 「六連隊まるす」	フランスのラッパ譜 斜体は部分一致		
5~75頁	88~148頁			36~41頁			
	A-1	A-2	A-3				
			『 』 連隊のシグナルを使用 日本産の可能性大			1連隊	
						2連隊	
						3連隊	
						4連隊	
						5連隊	
						6連隊	1
						7連隊	
						8連隊	
						9連隊	
						10連隊	
						11連隊	
		12連隊					
1	1	『 』 本 当 は 『 偕 A 』 の 3 番 と 2 番 は 順 序 を 『 B 』 に 合 わ せ た 。 (乱 丁 ？ 写 譜 ミ ス ？)		2	Marche (1869)		
2	2			3			
3	3			4	Trente pas accélérés ⑰ (1865)		
4	4			5			
5	5			6	Marches pour clairon seul ① (1877)		
6	6			7			
7	7			8			
8	8			9			
9	9			10			
10	10			11			
11	11			12			
12	12			13			
13	13				Marches pour clairon seul ⑩ (1877)		
14	14				Vingt pas accélérés originaux ① (1869)		
15	15				Vingt pas accélérés originaux ② (1869)		
16	16				Le pas accéléré (1877)		
17	17						
18	18						
19	19						
20	20						
21	21						
22	22						
23	23						
24	24						
25	25						
26	26						
27	27						
28	28						
29	29						
30	30						
31	31						
32	32						
33	33						
34	34						
35	35						
36	36						
37	37						
38	38						
39	39						
40	40						
41	41						
42	42						
43	43						

『偕行ラッパ譜B』	『偕行ラッパ譜A』			『喇叭記帳』 「六連隊まるす」	フランスのラッパ譜 斜体は部分一致
44	44				
45	45				
46	46				
47	47				
48	48				
49	49				
50	50				
51	51				
52	52				
53	53				
54	54				
55	55				
56	56				
57	57				
58	58				
59	59				Marches pour clairon seul ② (1877)
60	60				Marches pour clairon seul ③ (1877)
61	61				Marches pour clairon seul ④ (1877)
62	62				Marches pour clairon seul ⑤ (1877)
63	63				Marches pour clairon seul ⑥ (1877)
64	64				Marches pour clairon seul ⑦ (1877)
65	65				Marches pour clairon seul ⑨ (1877)
66	66				Marches avec tambours et clairons réunis ① (1877)
67	67				Marches avec tambours et clairons réunis ② (1877)
68	68				Marches avec tambours et clairons réunis ③ (1877)
69	69				Marches avec tambours et clairons réunis ⑥ (1877)
70	70				Marches avec tambours et clairons réunis ⑦ (1877)
71	71				Marches avec tambours et clairons réunis ⑧ (1877)
72	72				Marches avec tambours et clairons réunis ⑨ (1877)
73	73				Marches avec tambours et clairons réunis ⑩ (1877)
74	74				Marches de retraite pour clairon ④ (1877)
75	75				Marches de retraite pour clairon ① (1877)
76	76				
77	77				
78	78				<i>Marches de retraite pour clairon ② (1877)</i>
79	79				
80	80				
81	81				
82	82				
83	83				
84	84				
85	85				<i>Trente pas accélérés ① (1865)</i>
86	86				<i>Trente pas accélérés ② (1865)</i>
87	87				<i>Trente pas accélérés ③ (1865)</i>
88	88				<i>Trente pas accélérés ④ (1865)</i>
89	89				<i>Trente pas accélérés ⑤ (1865)</i>
90	90				<i>Trente pas accélérés ⑥ (1865)</i>
91	91				Marches de retraite pour clairon ③ (1877)
92	92				Marches de retraite pour clairon ⑤ (1877)
93	93				<i>Marches de retraite pour clairon ⑥ (1877)</i>
94	94				Marches de retraite pour clairon ⑦ (1877)
95	95				Marches de retraite pour clairon ⑧ (1877)
96	96				Marches de retraite pour clairon ⑨ (1877)
97	97				Marches de retraite pour clairon ⑩ (1877)
98			1		
99			2		
100			3		

『陸海軍喇叭譜』（1885）制定以前の陸軍フランス式ラッパ譜について

『偕行ラッパ譜B』	『偕行ラッパ譜A』		『喇叭記帳』 「六連隊まるす」	フランスのラッパ譜 斜体は部分一致
101		4		
102		5		
103		6		
104		7		
105		8		
106		9		
107		10		
108		11		
109		12		
110	1			
111	2			
112	3			
113	4			
114	7			
115	8			
116	5			
117	6			
118				
119				
120				
121				
122				
123				
124				
125				
126				
127				
128				
129				
130				
131				
132				
* 『偕行ラッパ譜A』には、他に「教導団歩兵大隊」と「士官学校」の16小節行進曲が掲載されている（34頁、84頁）				
(1865) = Méthode complète pour clairon d'ordonnance. / Clodomir				
(1869) = Méthode de clairon d'ordonnance. / A. Lagard				
(1877) = Règlement du 12 juin 1875 sur les manœuvres de l'infanterie./ Ministère de la guerre				

